

平成 28 年 12 月 18 日

平成 29 年度（第 7 回） 選択問題（企業分野） 解答の要素

＊第 6 回までの分類では、相談者が「転職するかどうか」という問題は「需給調整機関分野」の問題であったが、第 7 回では「企業分野」とされた。

事例相談者のタイプ：関係重視型

問 1 事例相談者の面談技法の問題を記述（必須問題問 2 と同じ）。

- ①相談者の傾聴による気持ちへの応答が不十分⇒関係構築が浅い⇒相談者の問題把握ができていない
- ②相談者の自己理解・仕事理解・長期のキャリア・ライフプラン、コミュニケーションなどの不足についての気づきを促す質問無し⇒キャリアコンサルタント視点の問題把握が不十分
- ③事例相談者（C C）の一方的な価値観で判断のうえ、意見や情報提供
- ④相談者と目標の共有なし

問 2 問 1 で捉えた問題を解決するために優先して取り組むべき「目標」

目標で示した内容を達成する「方策」を、具体的に、かつもれなく記述

【目標】

- ①キャリアコンサルタント視点の問題把握⇒相談者の問題の核心をつかむ
- ②目標の共有⇒方策の実行

【具体的な方法や内容】

目標の①を達成するために、キャリアコンサルタント視点の問題把握力をつける方策を実施

目標の②を達成するために、目標を共有し、適切な方策を実行する方策を実施

問 3 相談者と事例相談者に分けて記述

事例相談者については、相談者を支援するためのものと自身の面談スキルの改善のためのものに分けて記述

根拠は、働きかけの内容に対応した順に記述

＊問題文を正しく読み解き、この相談者を支援するために、相談者と事例相談者がそれぞれ、どのような働きかけをすれば良いかを考えていく

平成 29 年度（第 7 回） 選択問題（需給調整機関分野）解答の要素

＊第 6 回までの分類では、相談者の「企業内でのこれからの働き方をどうするか」という問題は「企業分野」の問題であったが、第 7 回では「需給調整機関分野」とされた。

事例相談者のタイプ：指示型・問題解決型

問 1 事例相談者の面談技法の問題を記述（必須問題問 2 と同じ）。

- ①事実の確認だけ⇒関係構築ができていない⇒相談者の問題把握ができていない
- ②事例相談者（C C）の一方的な価値観や判断に基づく目標の設定
- ③方策について相談者の意思にかかわらず勝手に判断

問 2 問 1 で捉えた問題を解決するために優先して取り組むべき「目標」

目標で示した内容を達成する「方策」を、具体的に、かつもれなく記述

【目標】

- ①相談者の気持ちへの応答⇒関係構築⇒相談者の問題把握を的確に
- ②目標の共有⇒方策の実行

【具体的な方法や内容】

目標の①を達成するために、相談者の気持ちに応答する技法を習得する方策を実施

目標の②を達成するために、目標を共有し、適切な方策を実行する方策を実施

問 3 相談者と事例相談者に分けて記述

事例相談者については、相談者を支援するためのものと自身の面談スキルの改善のためのものに分けて記述

根拠は、働きかけの内容に対応した順に記述

＊問題文を正しく読み解き、この相談者を支援するために、相談者と事例相談者がそれぞれ、どのような働きかけをすれば良いかを考えていく

平成 29 年度（第 7 回） 選択問題（教育機関分野） 解答の要素

事例相談者のタイプ：右往左往型・言いなり型

問 1 事例相談者の面談技法の問題を記述（必須問題問 2 と同じ）。

- ①自分の評価や判断による質問や意見の表明で、相談者が「置き去り」状態
- ②事実の確認だけ⇒関係構築ができていない⇒相談者の問題把握ができていない
- ③相談者の問題に対するキャリアコンサルタント視点の問題把握が不十分⇒相談者の本質的な問題解決に至らない
- ④事例相談者（C C）の一方的な価値観や判断に基づく目標の設定と方策の展開や提案

問 2 問 1 で捉えた問題を解決するために優先して取り組むべき「目標」

目標で示した内容を達成する「方策」を、具体的に、かつもれなく記述

【目標】

- ①キャリアコンサルティングの本質やキャリアコンサルタントの役割認識
- ②相談者の問題把握での相談者視点とキャリアコンサルタント視点の認識
- ③目標の共有や方策の提案における相談者ファーストの視点の認識

【具体的な方法や内容】

目標の①を達成するために、キャリアコンサルティングの機能やキャリアコンサルタントの役割を認識するための方策を実施

目標の②を達成するために、キャリアコンサルティングにおける問題把握の意味と方法の再確認

目標の③を達成するために、目標や方策を相談者と共有することの意義や共有するための方策を実施

問 3 相談者と事例相談者に分けて記述

事例相談者については、相談者を支援するためのものと自身の面談スキルの改善のためのものに分けて記述

根拠は、働きかけの内容に対応した順に記述